

令和元年度 教育厚生委員会 行政視察復命書

Ｒ1.10.23

4 番 間野みどり

日 時 令和元年 10 月 8 日（火）～10 月 9 日（水）

- 視察先
- 1.山あい集落における見守り・買い物支援について（道志村）
 - 2.義務教育の無償化・山村留学制度について（早川町）
 - 3.ごみ減量化について（食品ロス対策を含む）（松本市）
 - 4.全国初の公設民営の有床産婦人科医院について（山梨市）

以上の行政視察に行きましたので報告致します。

10 月 8 日（火）～9 日（水）に行いました、長野、山梨の両県にわたるバスを利用した研修でしたが、休憩もトイレのみという、かなりハードなスケジュールでしたが、より多くの話を聞くことができた充実した 2 日間となりました。

1.山あい集落における見守り・買い物支援について（道志村）

道志村は、今、キャンプ場女兒不明の捜索で大変な中、対応してくださいました。

村は、神奈川県との県境に位置し、北は道志山塊、南は丹沢山塊と 1000m を超える山々に囲まれた自然豊かな村でした。道志川は横浜の水源地であり、イワナ、ヤマメ、鮎、そして、クレソン等有名です。温泉、民宿もあり「日本で一番キャンプ場の多い村」でもあるとガイドブックにありました。

人口は、1,683 人。高齢者 607 人（高齢化率 36.07%）、小学校 1 校（児童数 51 人）、中学校 1 校（生徒数 39 人）、保育所 1 ヶ所（定員 40 人）。やはり高齢化、少子化に苦慮している村でした。

そんな中、見守り・買い物には、村全体で取り組んでいる様子がうかがえました。特に平成 21 年に、全世帯告知用端末が設置され、TV 電話、タブレットを使用し、平成 22 年から「にっこりコール」をスタートさせていました。「にっこりコール」とは、行政と連絡を取り合うことができ、健康相談やお知らせ等を知る事ができます。

村の方々と連絡、話ができ、そのシステムが心のよりどころであると感じました。

この村は、移住者も多く、どこの市町村でもそうですが、元から定住している方より、移住者の方が、友達づくりや仲間づくり、ボランティア等に前向きなところがあり、この村も然りでした。

買い物のツアーも同じような傾向でした。

感想としては、地域的に首都圏に近く、親族は比較的来やすく、コンビニは村にないものの少し行くとコンビニや生協等も充実していて、関東圏独特の便利さもあるという環境と、それプラス、今後はタブレット等の使用で、行政や医療とのつながりもでき、安心して住みやすい村づくりにつなげていく様子はとても良いと思いました。

我が市も、タブレット等の活用を考えながら、あまり年齢を重ねる前に、タブレット等の使用にも慣れるような指導等のサポートも必要なのではないかと感じました。

2.義務教育の無償化・山村留学制度について（早川町）

早川町というと、静岡からは身延山、七面山の近くという方がわかりやすく、先日 TV でバス旅飲食店探しを放映され、偶然見たところでした。

人口 1,051 人（令和元年 9 月）、小学校 2 校、中学校 1 校、保育所 1 ヶ所とやはり過疎に悩む町でした。

どうして、山村留学を取り入れたのかの問いには、上の地区の小学校の児童数が 4 人になり、学校がなくなるイコール町が衰退するという考えから、子ども達を増やせば、活気づき、皆が元気になるだろうと考えたと、教育長さんの話でよくわかりました。

現在は、小中学校の子を持つ親たちのみの山村留学と聞き、なぜ未就学児の小さい子は該当しないのかと尋ねると、当初は考えておらず、今後はそれも視野に入れているとの答えでした。新しい事を発想する上で、“やってみてわかったこと”の一例だと思いました。

町長さんの話の中で、山村留学で来た子ども達に、将来もこの町に住んでほしいのではなく、子ども時代に早川町で学び育ったという記憶を持って、世界に羽ばたいてもらいたいというコメントは印象的でした。

町民や子ども達のためにいろいろな工夫をし、行動に移し、良い方向へ持っていけたら良いなという熱い姿勢を感じた視察でした。

3.ごみ減量化について（食品ロス対策を含む）（松本市）

私にとっても松本市は勉学の市というイメージの市です。

この市の食品ロスの取り組みは、前職が医師であった市長が、発展途上国や難民救済等のボランティアの経験から、全世界に広がる貧困や食品ロスに目を向け、そこから市政を考えようとしたと理解しました。

はじめに、何から取り組みましたかという質問に、ティッシュペーパーやコースター等、身近なものから、飲食店や市民に告知したという事でした。頭で考える建て前の事より、身近な取り組みに驚きました。

また、「みんなで減らそう食品ロス」を掲げ、

- ・家族でできる食べ物勿体無い運動
- ・30日冷蔵庫クリーンアップデー（冷蔵庫の勿体無いものを料理する）
- ・10日は勿体無いクッキングデー（今まで捨てていたもので料理づくり）
- ・外では、3010運動（宴会等では、はじめ30分、終わり10分は座って食べよう）

このように、本当に身近なものから周知していっている様子でした。

この一つ一つは小さな事です、だんだん広がりを見せれば、本当に良い世界になると思いました。

4.全国初の公設民営の有床産婦人科医院について（山梨市）

桃や葡萄の木を見ながら、人口35,028人の山梨市を訪ねました。

この山梨市の、山梨市立産婦人科医院は、旧中村産婦人科が、駅の拡張工事の為に移転を余儀なくされ、その時、市にとって絶対に必要な産婦人科医院を残すということで、公設民営という計画になったという話を聞きました。

施設は新しく、病室の大部屋もとてもゆったりとしていて、隅々まで気を遣ったつくりになっていて、妊婦さんにはこの上ない環境に思いました。

しかし、院長先生の思いは複雑で、今の医療の問題点である医師不足、看護師不足、助産師不足、また過労働と大変なご苦労をされているのが分かりました。

しかし、そんな中でなぜやっているのかというと、最後はハートで、“市民や人の為に役に立ちたい”という、一途な思いでやっている様子でした。

たまたま親の土地があり、ここに開業、この土地で育ったわけではないけれども、“縁あってここに来た”ということのを大事にしていました。

また取り組み事業の中で、切れ目のない子育て支援の中で、宿泊型産後ケア事業が画期的でした。1回3泊まで利用できる制度で、基本料金34,000円のうち28,900円は市が負担してくれるため、1泊2食付5,100円で利用できるというのは素晴らしいと思いました。我が伊豆市でも、是非参考にしたいものです。

我が市でも、市民の為に帰ってきて、仕事をしている方もみられます。他の土地や東京等の首都圏の方が、よほど利益があるかもしれない…と、人が言っているのを聞きました。

院長の中村医師の話聞きながら、我が市もそういう方を大事にしないといけないのではないかと感じました。

1泊2日のハードな研修で、それぞれ、今後の伊豆市にも関係していることも多く、参考にしていきたいと思いました。

ただ一点、同じような人口構成の視察先を、もう少し選んだ方がよく、あまりにも違うと環境の違いを感じてしまうので、その点は、今後の視察課題だと思いました。

以上